

第3章 出火原因別火災状況

1 放 火

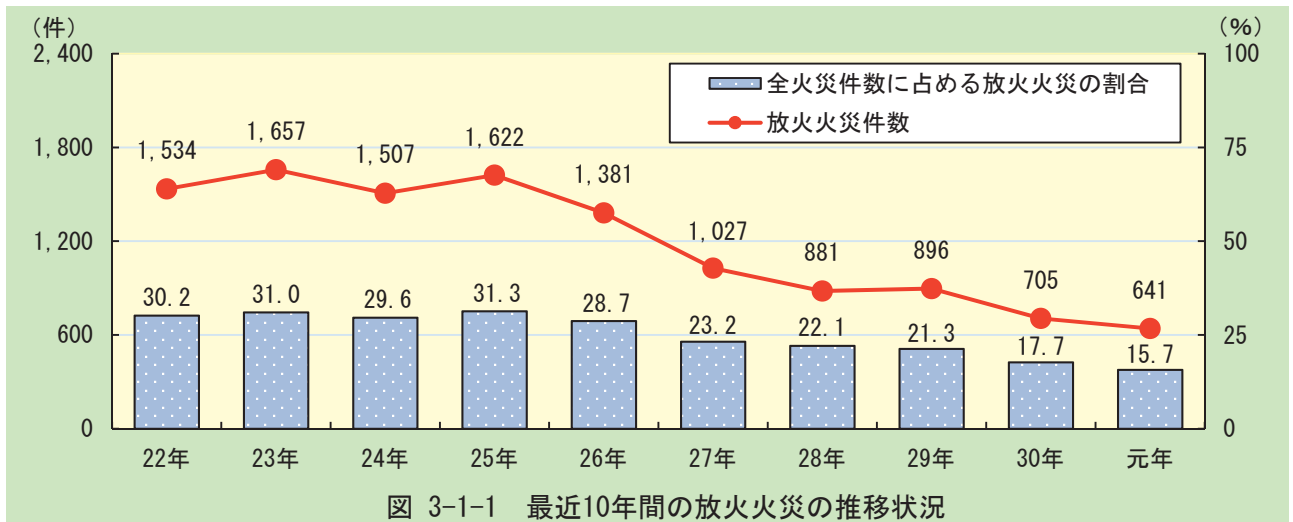
- 昭和52年から出火原因の第1位でしたが、たばこに次いで第2位となっています。
- 夜間は全火災件数に占める放火火災の割合が高くなっています。

抽出条件：経過分類コード 「911 放火」、「912 無意識放火*」、「921 放火の疑い*」

(1) 火災状況

表 3-1-1 年別火災状況（最近10年間）

年 別	火 災 種 別										損 害 状 況				
	合 計	建 物					林 野	車 両	船 舶	そ の 他	焼 損 床 面 積 (m^2)	焼 損 表 面 積 (m^2)	損 害 額 (千円)	死 者	負 傷 者
		小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や									
22年	1,534	646	25	10	92	519	1	69	-	818	4,052	1,870	677,432	18	80
23年	1,657	632	30	22	99	481	3	75	-	947	5,027	1,580	700,670	25	107
24年	1,507	615	28	6	82	499	1	54	-	837	3,746	1,202	604,385	26	77
25年	1,622	640	30	10	76	524	1	49	-	932	3,709	1,499	633,398	16	82
26年	1,381	510	15	10	77	408	1	62	-	808	3,697	1,585	529,165	19	69
27年	1,027	382	8	8	58	308	1	54	-	590	2,036	1,388	556,067	18	60
28年	881	384	14	14	47	309	-	39	2	456	3,501	732	328,668	24	73
29年	896	351	7	7	49	288	3	31	-	511	1,608	1,003	275,259	14	57
30年	705	276	7	3	46	220	-	17	-	412	1,178	755	171,864	14	60
元年	641	255	14	6	39	196	1	12	-	373	1,937	532	525,967	26	67



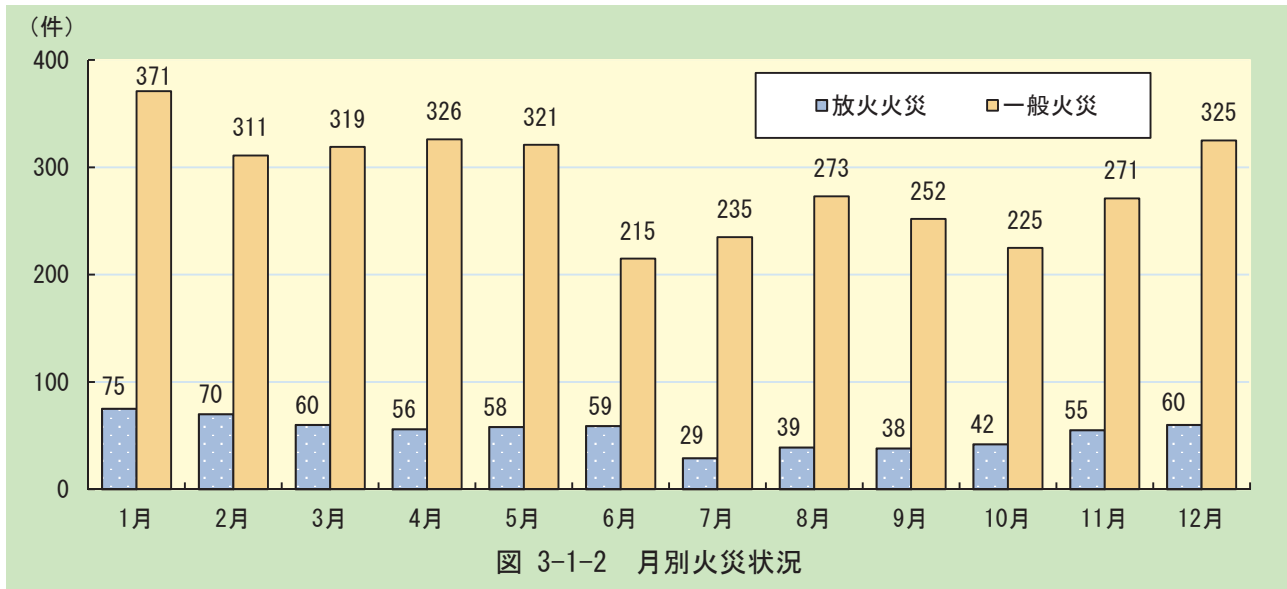
注 全火災件数は治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。以下同じ。

(2) 放火火災の傾向

ア 月別と時間別の発生状況

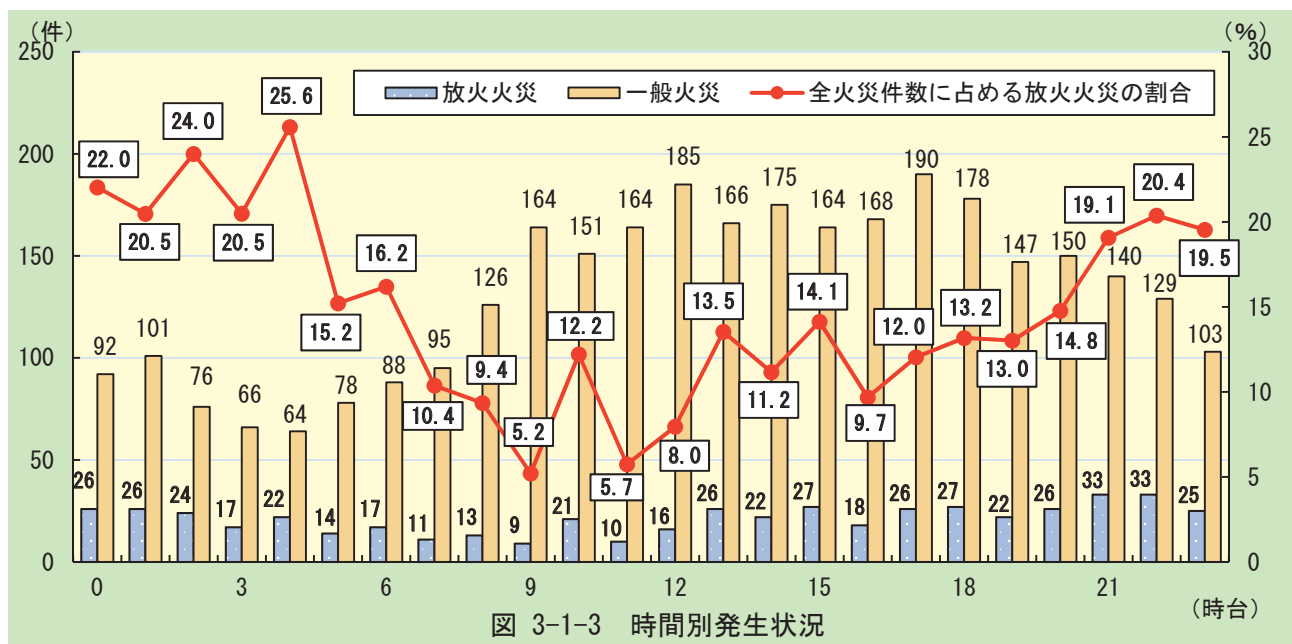
(7) 月別発生状況

放火と放火以外の火災（以下「一般火災」という。）の月別発生状況をみたものが図 3-1-2 です。



(イ) 時間別発生状況

全火災件数のうち出火時間が不明の 414 件を除いた 3,671 件の火災について、放火火災と一般火災の時間別発生状況をみたものが図 3-1-3 です。



- 放火火災は月別では1月に最も多く発生しているが、時期による大きな違いはない。
- 一般火災は日中に多いのに対し、放火火災は夕方から深夜の時間帯に多く発生。

イ 放火場所（出火箇所）と着火物

放火された場所（出火箇所）を建物関係（主として建物の箇所）、建物関係以外（主として建物以外の箇所）に分けてその着火物をみたものが表 3-1-2 です。

表 3-1-2 着火物別放火場所（出火箇所）

放火場所 (出火箇所)		合 計	紙 ・ 紙 製 品	枯 草 ・ 落 葉 ・ 立 木 ・ 芝 草	ご み く ず	織 維 類	合 成 樹 脂 ・ 合 成 樹 脂 製 品	く ず 類	木 質 物	車 両 関 係	原 木 ・ 廃 材 等	引 火 物 類	建 具	床 材	付 帯 設 備	壁 材	家 具 等	そ の 他	不 明	
合 計		641	139	108	101	80	78	42	11	10	9	5	5	4	3	2	2	6	36	
建物関係 (主として 建物箇所)	小 計	247	80	1	14	53	32	11	5	1	-	4	5	4	-	1	1	4	31	
	共用部分	84	42	-	3	8	18	4	1	-	-	-	1	-	-	-	-	2	5	
	居住関係	76	15	-	-	32	1	2	-	-	-	4	1	3	-	-	1	1	16	
	建物の外周部	17	4	1	1	1	3	-	2	-	-	-	1	-	-	1	-	-	3	
	倉庫・物置	15	5	-	3	3	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	ベランダ・屋上等	14	3	-	2	5	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	車庫・駐車場	10	3	-	2	-	3	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	店舗・客室関係	9	4	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	
	空家・工事中建物	8	1	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	1	
	施設管理・休憩室等	5	1	-	1	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	作業関係	3	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
事務室等	3	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		
上記以外	3	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		
建物関係以外 (主として建物 以外の箇所)	小 計	394	59	107	87	27	46	31	6	9	9	1	-	-	3	1	1	2	5	
	車両	車 内	3	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-
		車両外周部	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	その他	敷地内	139	27	21	28	10	26	10	2	4	3	-	-	-	2	1	1	2	2
		公園・墓地	101	20	39	16	6	6	10	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1
		道路・地下通路	52	10	10	15	5	4	5	1	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-
		河川敷	34	1	20	5	2	-	3	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
		屋外ごみ捨場	24	1	-	19	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
		空地	17	-	11	1	3	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
		屋外駐車場	10	-	1	2	1	2	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		工作物等	4	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
他	田畑	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
	上記以外	5	-	3	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

- 放火された場所は、建物関係では廊下・玄関ホール・階段などの「共用部分」が多い。
- 着火物別で見ると、ダンボール等の「紙・紙製品」が2割以上（21.7%）を占める。

ウ 用途別状況

放火火災のうち、建物から出火した火災 230 件の用途別発生状況をみたものが表 3-1-3 です。

表 3-1-3 火元建物用途別発生状況

火 元 の 用 途 (合 計 2 3 0 件)																	
居 住 系			事 業 系									居 住 ・ 事 業 系 以 外					
共 同 住 宅 等	住 宅	住 宅 複 合 用 途 部 分	学 校	飲 食 店	停 車 場	事 務 所 等	神 社 ・ 寺 院	易 宿 泊 所	ホ テ ル ・ 簡 易 宿 泊 所	物 販 店 等	百 貨 店 ・ 等	病 院 等	そ の 他	共 用 部 分	付 属 建 物 等	空 家	建 工 事 中 の 物
83	37	6	7	6	5	4	4	4	4	3	2	35	20	8	1	5	

注 事務所等は、15 項のうち事務所、官公署、銀行の合計です。

(3) 地域別放火火災の発生状況

特別区と受託地区に分けて上位 10 区市をみたものが表 3-1-4 です。放火による出火率とは人口 1 万人当たりの放火件数をいいます。

表 3-1-4 地域別放火火災発生状況

特 別 区	件 数	放 火 に よ る 出 火 率	受 託 地 区	件 数	放 火 に よ る 出 火 率
足 立 区	49	0.7	町 田 市	37	0.9
江 戸 川 区	39	0.6	八 王 子 市	37	0.7
板 橋 区	37	0.6	日 野 市	12	0.6
江 東 区	34	0.7	武 蔵 野 市	11	0.7
世 田 谷 区	30	0.3	立 川 市	11	0.6
葛 飾 区	29	0.6	府 中 市	11	0.4
新 宿 区	26	0.7	昭 島 市	10	0.9
練 馬 区	25	0.3	調 布 市	10	0.4
大 田 区	21	0.3	あ き る 野 市	9	1.1
中 野 区	14	0.4	多 摩 市	7	0.5

(4) 連続放火火災の発生状況

表 3-1-5 主な連続放火火災の発生状況

回 数	月 日	管 内	主 な 出 火 場 所	焼 損 物 件	件 数
1	4 月	日 野	(日野市) 百草	枯草	8
2	4 月	金 町	(葛飾区) 金町、東金町、柴又	公衆便所、自転車等	5
3	6 月	新 宿	(新宿区) 歌舞伎町、新宿	ごみ、ダンボール等	6
4	8 月	秋 川	(あきる野市) 平沢、二宮	公衆便所トイレトーパー等	7
5	9 月	城 東	(江東区) 亀戸	枯草	5

注 本表は、同一日とその翌日までの間で、同一地域に 5 件以上発生した放火火災を集計したものです。

- 放火の対象となった建物用途は、居住系では「共同住宅等」が最も多く発生。
- 特別区では足立区、受託地区では町田市及び八王子市で放火火災が多く発生。

2 たばこ

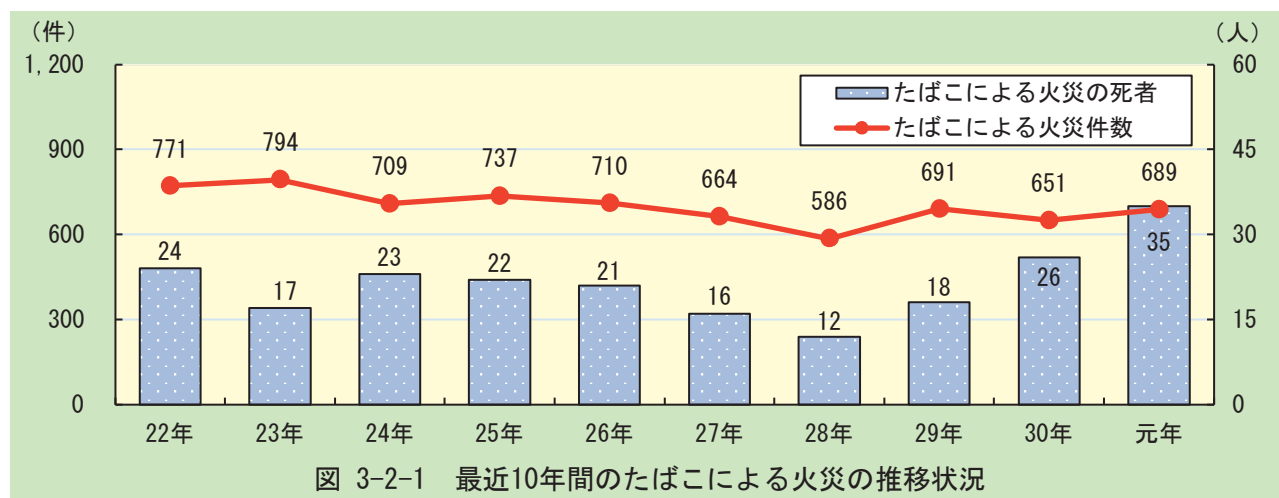
- 昭和 51 年以来、43 年ぶりに出火原因第 1 位となっています。
- 建物から出火した火災の 8 割以上を居住関係用途が占めています。
- 寝たばこによる火災は 18 件発生し、そのうち死者が 1 人、負傷者が 8 人発生しています。

抽出条件：発火源分類コード 「42101 たばこ」
経過分類コード 「911 放火」、「912 無意識放火」、「921 放火の疑い」、「931 火遊び」を除く

(1) 火災状況

表 3-2-1 年別火災状況（最近 10 年間）

年 別	火災の種類										損害状況				
	合計	建物 小計	全 焼	半 焼	部分 焼	物 ぼ や	林 野	車 両	船 舶	そ の 他	焼 損 床 面 積 (m^2)	焼 損 表 面 積 (m^2)	損 害 額 (千円)	死 者	負 傷 者
22 年	771	484	10	25	137	312	-	18	-	269	3,096	1,274	626,414	24	127
23 年	794	461	7	31	120	303	-	14	-	319	3,611	1,466	745,868	17	124
24 年	709	462	5	27	123	307	-	15	-	232	2,992	1,324	585,057	23	104
25 年	737	432	3	18	128	283	-	11	-	294	2,664	1,651	513,123	22	86
26 年	710	415	7	16	111	281	-	20	-	275	2,105	1,158	485,068	21	98
27 年	664	372	6	17	100	249	-	13	-	279	1,913	838	356,287	16	65
28 年	586	354	4	9	88	253	-	17	-	215	1,698	566	328,463	12	92
29 年	691	370	4	11	99	256	-	10	-	311	1,622	1,037	462,962	18	88
30 年	651	366	4	15	104	243	-	13	-	272	2,391	1,188	529,065	26	92
元年	689	374	5	14	101	254	1	19	-	295	1,750	797	541,339	35	77

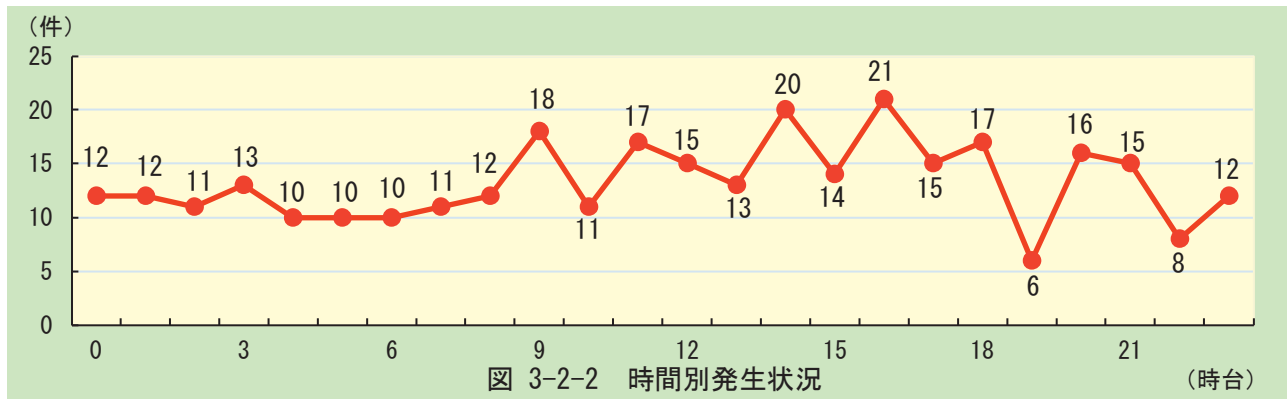


- たばこによる火災件数は、昨年より 38 件増加しているが、最近 10 年間は概ね横ばいで推移。
- たばこによる火災の死者は前年より 9 人増加し、平成 28 年より増加傾向。

(2) 建物からの発生状況

ア 時間別発生状況

たばこによる火災 689 件のうち、建物から出火した火災は 338 件で、このうち出火時分が不明の 19 件を除いた 319 件について時間別発生状況をみたものが図 3-2-2 です。



イ 主な建物用途の出火箇所

建物から出火した火災 338 件について、出火した用途と出火箇所をみたものが表 3-2-2 です。

表 3-2-2 出火した用途別の出火箇所

出火箇所	合計	建物用途										
		居室系	事業系									居住・事業系以外
			小計	事務所等	飲食店	簡易宿泊所等	ホテル・物品販売店舗等	停車場	工場等	その他		
合計	338	279	39	9	7	5	4	2	1	11	20	
居室	179	175	4	-	-	-	-	-	-	4	-	
ベランダ	57	52	3	1	-	-	1	-	-	1	2	
キッチン等	31	31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
便所・浴室等	11	8	3	1	-	-	-	1	1	-	-	
廃品置場・ごみ捨て場	9	4	-	-	-	-	-	-	-	-	5	
店舗・客室関係	8	-	8	-	2	5	1	-	-	-	-	
玄関・ホール等	7	4	2	1	-	-	-	1	-	-	1	
廊下・階段等	7	2	1	1	-	-	-	-	-	-	4	
作業関係	6	-	6	2	4	-	-	-	-	-	-	
事務室等	6	-	5	3	1	-	-	-	-	1	1	
倉庫・物置・駐車場	5	1	3	-	-	-	-	-	-	3	1	
施設管理・休憩室等	5	-	4	-	-	-	2	-	-	2	1	
屋上等	3	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
建物の外周部	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
機械室関係	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
工事中建物	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	

注 事務所等は、15 項のうち事務所、官公署、銀行の合計です。

ウ 経過別出火箇所

建物から出火した火災で経過別に出火箇所をみたものが表 3-2-3 です。

表 3-2-3 経過別出火箇所の状況

経過	合計	出火箇所															
		居室	ベランダ	キッチン等	便所・浴室等	廃品置場・ごみ捨て場	店舗・客室関係	玄関・ホール等	廊下・階段等	作業関係	倉庫・物置・駐車場	事務室等	施設管理・休憩室	屋上	建物の外周部	機械室関係	工事中建物
合計	338	180	57	31	11	9	8	7	7	6	5	5	5	3	2	1	1
不適当な処に捨てる	201	67	51	23	6	9	8	5	7	6	3	5	4	3	2	1	1
火源が落下する	129	109	6	6	5	-	-	1	-	-	1	-	1	-	-	-	-
火源が接触する	2	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不明	6	3	-	2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-

エ 経過別の喫煙時の状況

建物から出火した火災 338 件のうち、喫煙時の状況が不明の 76 件を除いた 262 件について経過別に喫煙時の状況をみたものが表 3-2-4 です。

表 3-2-4 経過別の喫煙時の状況

経過	合計	喫煙時の状況													
		就寝時	外出時	休憩中	出勤時	起床時	飲酒中	作業中・執務中	飲食中	観覧中・鑑賞中	会議中・談話中	遊戯中	家事・炊事・除く	帰宅準備中	その他
合計	262	61	54	54	20	16	15	8	2	2	2	1	1	1	25
不適当な処に捨てる	157	14	42	39	14	7	10	6	-	1	1	1	-	1	21
火源が落下する	100	45	11	15	6	8	5	1	2	1	1	-	1	-	4
火源が接触する	2	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
不明	3	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-

- 経過別では「不適当な処に捨てる」が全体の 6 割近く（59.5%）を占め、その多くは居室及びベランダで発生。
- 喫煙時の状況をみると、「就寝時」が 61 件で最も多く、2 割（23.3%）を超える。

オ 出火に至った時間

建物から出火した火災 338 件のうち、出火に至った時間が不明の 87 件を除いた 251 件について時間経過別に着火物をみたものが表 3-2-5 です。

表 3-2-5 出火に至った時間経過と着火物

出火に至るまでの時間	合 計	火 着 物											
		ご み く ず	織 維 類	紙 ・ 紙 製 品	く ず 類	合 成 樹 脂 製 品	合 成 樹 脂 製 品	家 具 類	床 材	壁 材	木 質 物	枯 草	不 明
合 計	251	125	79	19	7	6	5	3	1	1	1	4	
1 時 間 未 満	155	87	37	12	6	5	3	2	-	-	1	2	
1 時 間 以 上 2 時 間 未 満	43	23	14	2	1	-	1	1	1	-	-	-	
2 時 間 以 上 3 時 間 未 満	26	12	10	3	-	-	-	-	-	-	-	1	
3 時 間 以 上 4 時 間 未 満	11	1	7	1	-	1	1	-	-	-	-	-	
4 時 間 以 上 5 時 間 未 満	7	-	5	1	-	-	-	-	-	1	-	-	
5 時 間 以 上 6 時 間 未 満	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
6 時 間 以 上	8	2	5	-	-	-	-	-	-	-	-	1	

○ 1 時間未満が 6 割以上（61.8%）を占め、そのうち着火物は「ごみくず」が最も多い。

カ 行為者の状況

(7) 行為者の男女別・年齢

たばこによる火災件数と国民の喫煙率の推移をみたものが図 3-2-3 です。

建物から出火した火災 338 件のうち、行為者の男女別及び年齢が判明している火災 304 件の状況をみたものが図 3-2-4 です。

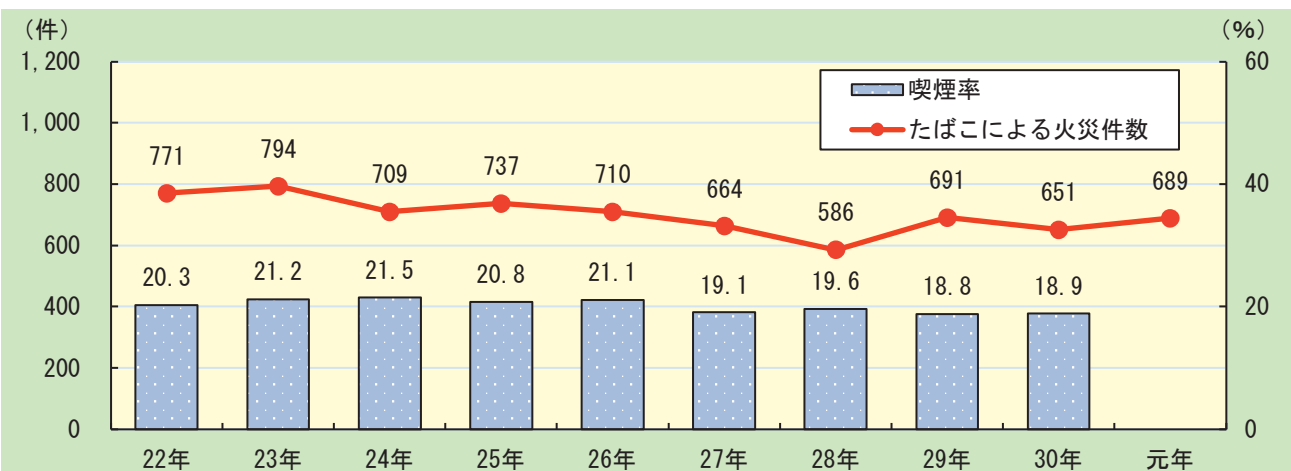
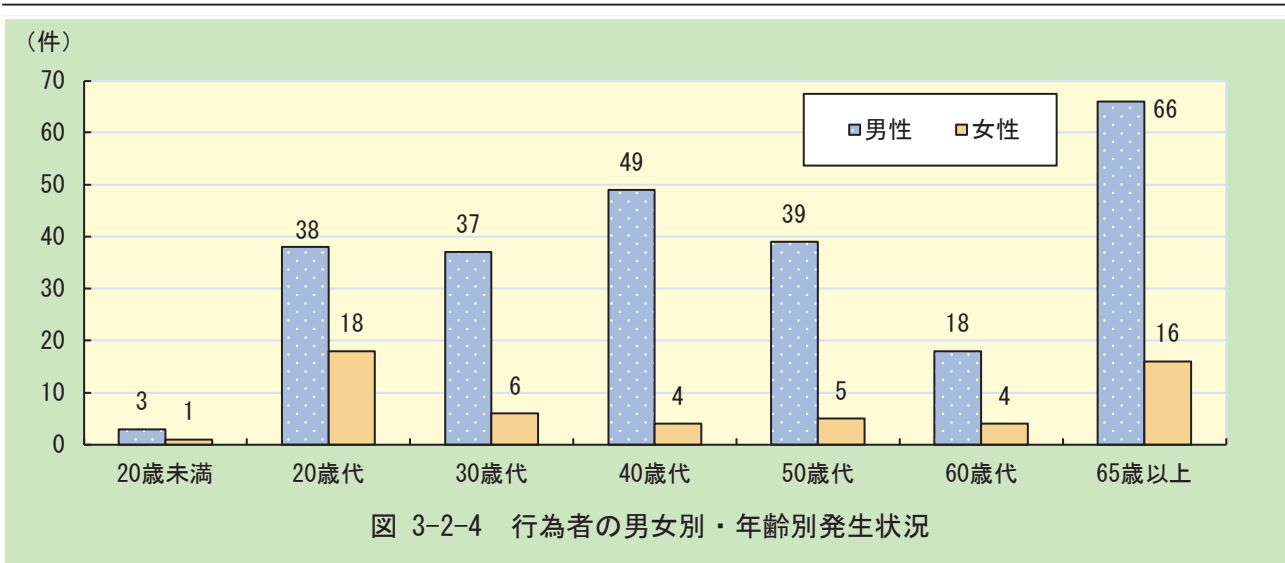


図 3-2-3 たばこによる火災件数と国民の喫煙率の推移

注 喫煙率は厚生労働省国民健康調査より引用（令和元年は未公表）



- 喫煙率及びたばこによる火災件数は減少傾向にあったが、平成 29 年に増加し以降は横ばい。
- 行為者の男女別では男性が 250 件（82.2%）で 8 割以上を占める。

(イ) 寝たばこによる状況

「寝たばこ」は、「就寝前若しくは起床時などに寝具類の中または上で喫煙し、たばこにより寝具類に着火して出火した火災」を示しています。

表 3-2-6 寝たばこの年齢区分別行為時の状態

年齢区分別	合計	行為時の状態				死者	負傷者
		飲酒	正常	薬物服用	不明		
合計	18	9	6	2	1	5	7
20歳未満	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	1	-	1	-	-	-	1
30歳代	2	1	1	-	-	-	1
40歳代	-	-	-	-	-	-	-
50歳代	-	-	-	-	-	-	-
60歳代	3	2	-	1	-	-	1
65歳以上	12	6	4	1	1	5	4

- 寝たばこによる火災は、年齢区分別では「65歳以上」が 12 件（66.7%）で 7 割近くを占め、そのうち半数が飲酒状態。

(3) 建物以外の発生状況

建物以外から出火した火災 351 件について出火箇所別に着火物をみたものが表 3-2-7 です。

表 3-2-7 出火箇所別の着火物（建物以外）

出火箇所	合計	着火物										
		ごみくず	立木・落葉・芝草	枯草	木質物	紙・紙製品	くず類	繊維類	廃材	樹脂製・合成樹脂製・合成	車両関係	床材
合計	351	146	89	31	23	18	18	14	8	2	1	1
固有地（物）	小計	161	76	38	10	10	11	2	10	3	1	-
	敷地内	123	50	33	8	10	8	1	10	2	1	-
	ごみ箱・屋外ごみ捨て場	23	19	-	-	-	2	1	-	1	-	-
	屋外駐車場	11	5	4	2	-	-	-	-	-	-	-
	屋外物品置場	4	2	1	-	-	1	-	-	-	-	-
道路・公園等	小計	146	58	50	12	8	4	11	2	1	-	-
	道路（側溝を含む）	99	46	29	3	6	3	11	-	1	-	-
	公園	24	7	6	7	2	1	-	1	-	-	-
	河川敷	11	3	7	1	-	-	-	-	-	-	-
	空地	5	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-
	軌道敷	3	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-
	畑	2	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-
	地下道路・地下通路	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
車両	小計	19	4	-	3	4	-	4	-	3	1	-
	荷台	7	1	-	3	2	-	1	-	-	-	-
	助手席	4	1	-	-	1	-	1	-	1	-	-
	原動機付自転車	3	-	-	-	-	-	1	-	1	1	-
	運転席	3	1	-	-	1	-	-	-	1	-	-
	二輪自動車	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	客席	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
建物の部分	小計	18	6	1	2	1	3	1	2	1	-	1
	屋上	7	4	1	1	-	-	1	-	-	-	-
	建物の外周部	6	1	-	-	1	3	-	1	-	-	-
	ベランダ	4	1	-	1	-	-	-	1	-	-	1
	屋上工作物	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
工物等	小計	7	2	-	4	-	-	-	-	-	-	1
	橋	3	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-
	塀	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
	日除（工作物）	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	やぐら類	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
さん橋	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	

- 建物以外から出火した火災は敷地内等の「固有地（物）」で半数近く（45.9%）発生。
- 着火物は「ごみくず」が 146 件（41.6%）で最も多く 4 割以上を占める。

3 火遊び

○ 火災件数は21件で、最近10年間では最も少ない発生となっています。

抽出条件：経過分類コード 「931 火遊び」

(1) 火災状況

ここでとりあげる「火遊び」とは、行為者が14歳未満の者で、遊びを目的として出火させた火災をいいます。

なお、玩具用花火で遊戯中に火出したものは、含んでいません。

ア 年別火災状況

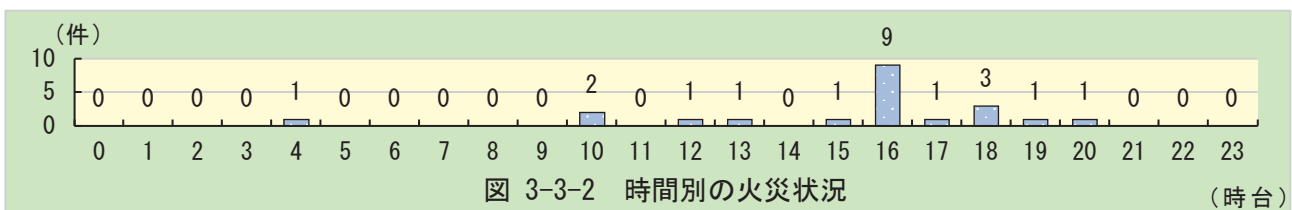
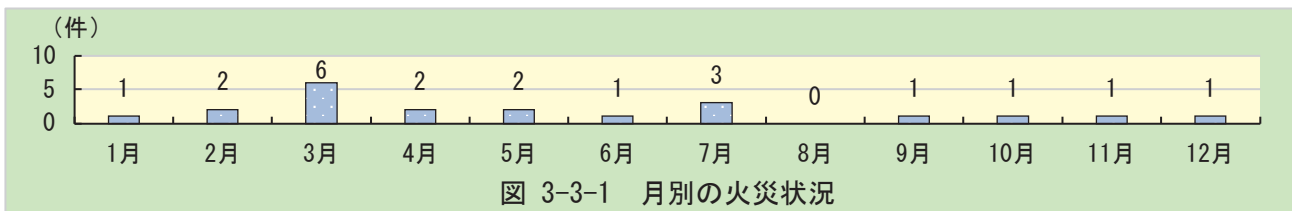
最近10年間の年別火災状況をみたものが表3-3-1です。

表 3-3-1 年別火災状況（最近10年間）

年 別	火災の種類									焼 損 床 面 積 (㎡)	焼 損 表 面 積 (㎡)	損 害 額 (千円)	死 者	負 傷 者
	合 計	建 物					車 両	林 野	そ の 他					
		小 計	全 焼	半 焼	部分 焼	ぼ や								
22年	115	41	-	-	6	35	3	-	71	93	73	24,068	2	17
23年	109	42	-	2	10	30	1	-	66	246	82	51,075	-	22
24年	98	34	1	1	3	29	1	-	63	152	12	7,132	2	12
25年	74	25	-	2	4	19	-	-	49	205	89	55,238	-	10
26年	76	20	-	-	2	18	3	-	53	34	9	7,413	-	1
27年	72	26	-	2	5	19	-	2	44	120	18	30,700	-	4
28年	33	14	-	-	2	12	-	-	19	20	12	3,048	-	1
29年	49	19	-	-	5	14	-	-	30	15	5	2,707	-	3
30年	31	12	-	-	1	11	-	-	19	10	-	1,593	-	2
元年	21	11	-	-	3	8	-	-	10	16	3	3,610	-	-

イ 月別・時間別の発生状況

月別の火災状況についてみたものが図3-3-1、時間別の火災状況についてみたものが図3-3-2です。



- 月別では、3月が6件（28.6%）で最も多く、次いで7月が3件（14.3%）発生。
- 時間別では、16時台が9件（42.9%）と最も多く、15時台から20時台にかけて火災が多発。

(2) 出火箇所

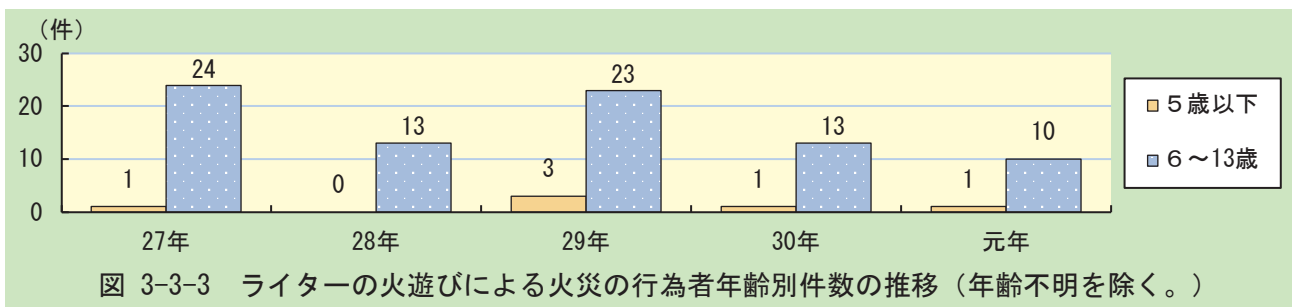
発火源別に出火箇所をみたものが表 3-3-2 です。

表 3-3-2 発火源別出火箇所

発火源	合計	出火箇所							
		建物関係 (主として建物の箇所)				建物関係以外 (主として建物以外の箇所)			
		居室	ごみ 捨て場	廃品 置場	一般 店舗	押入	公園	敷地 内	河川 敷
合計	21	3	3	2	1	6	3	2	1
ライター	12	1	2	2	1	3	1	1	1
マッチ	5	1	-	-	-	2	1	1	-
不明	4	1	1	-	-	1	1	-	-

ライターの火遊びによる火災の発生状況

最近5年間のライターの火遊びによる火災の行為者年齢別をみたものが図 3-3-3 です。



- 発火源別では、ライターが12件（57.1%）で最も多く、6割近くを占める。
- ライターの火遊びは減少傾向で、最近5年間では最少。

(3) 子供に対するライターの安全対策

消費生活用製品安全法施行令の一部改正により、平成23年9月27日以降、使い捨てライター等は、幼児の誤使用を防ぐチャイルドレジスタンス機構（CR）を備えないライターや幼児が興味を引くようなおもちゃ型のライター（ノベルティライター）は販売できなくなりました。技術基準に適合しているライターについてはPSCマークの表示が義務付けられています。

4 ライター

- 火災件数、焼損床面積、焼損表面積、損害額がいずれも前年より増加しています。
- ライターによる火災の7割近くを建物火災が占めています。

抽出条件：①発火源分類コード 「42301 ライター」

②経過分類コード 「911 放火」、「912 無意識放火」、「921 放火の疑い」、「931 火遊び」を除く。

(1) 火災状況

ここでとりあげるライターによる火災とは、発火源がライターで、放火及び火遊びによる火災を除いたものをいいます。

ア 年別火災状況

最近10年間の年別火災状況をみたものが表3-4-1です。

表3-4-1 年別火災状況（最近10年間）

年 別	火災種別									損害状況				
	合 計	建 物					林 野	車 両	そ の 他	焼 損 床 面 積 (m^2)	焼 損 表 面 積 (m^2)	損 害 額 (千円)	死 者	負 傷 者
		小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や								
22年	74	36	1	1	2	32	-	34	4	239	103	54,254	1	22
23年	65	40	1	2	6	31	-	21	4	311	128	114,122	-	38
24年	41	29	-	-	4	25	-	10	2	17	14	3,156	1	21
25年	47	27	-	3	1	23	-	16	4	178	87	32,234	1	20
26年	46	32	1	1	4	26	1	9	4	673	68	178,153	2	34
27年	33	18	-	-	2	16	-	11	4	77	20	23,320	1	11
28年	40	27	-	1	2	24	-	11	2	60	7	19,017	-	32
29年	28	21	-	1	2	18	-	5	2	34	21	5,968	-	15
30年	25	19	-	-	2	17	-	4	2	6	8	6,252	1	16
元年	29	19	-	1	3	15	-	7	3	91	24	59,481	-	14

イ 月別火災状況

ライターによる火災を月別にみたものが図3-4-1です。

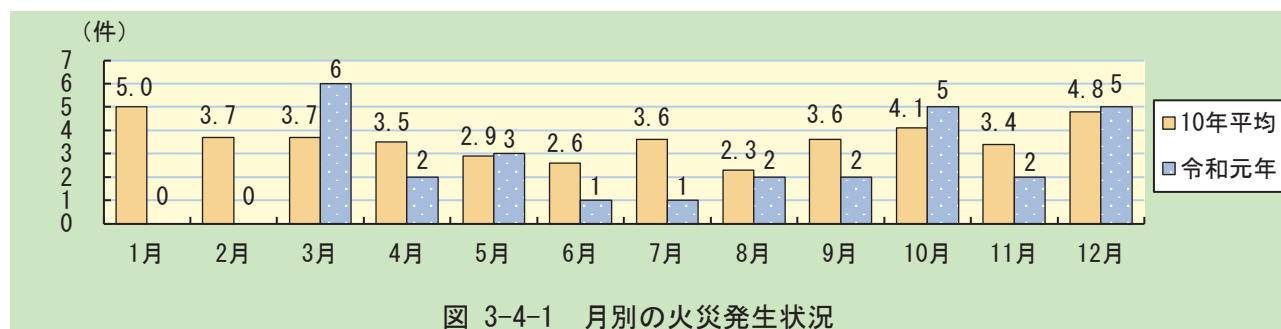


図3-4-1 月別の火災発生状況

- 3月が6件（20.7％）で最も多く発生。
- 最近10年間の月別平均件数では、1月が5.0件と最多。

(2) 経過別出火箇所区分

ライターによる火災の状況を経過別出火箇所区分で見たものが表3-4-2です。

表3-4-2 経過別出火箇所区分の状況

出火箇所区分		合計	経過別					
			引火する	が誤ってスイッチが入る	接炎する	の本来の用途以外	火源が接触する	不明
合計		29	8	8	6	3	3	1
建物	小計	19	8	2	4	3	1	1
	建物（自宅）	13	4	1	4	2	1	1
	建物（事業用）	4	2	1	-	1	-	-
	建物（その他）	2	2	-	-	-	-	-
建物以外	小計	10	-	6	2	-	2	-
	車両からの出火	7	-	6	-	-	1	-
	屋外で出火	3	-	-	2	-	1	-

- 経過別では、「引火する」、「誤ってスイッチが入る」が各8件（27.6％）で3割近くを占める。
- 「誤ってスイッチが入る」の8割近く（75.0％）が車両からの出火。

5 ロウソク

○ 火災件数が42件で前年と比べて1件増加しました。

抽出条件：①発火源分類コード 「41701 ロウソク」、「41702 灯明」、「41703 ちょうちん」、「41704 灯ろう」、「41705 走馬灯」

②経過分類コード 「911 放火」、「912 無意識放火」、「921 放火の疑い」、「931 火遊び」を除く。

火災状況

ここでとりあげる「ロウソク」とは、アロマテラピーや照明で使う「ロウソク」や宗教等のために用いる「灯明*」などをまとめた火災をいいます。

最近10年間の年別火災状況をみたものが表3-5-1、ロウソクによる火災の経過をみたものが図3-5-1、ロウソクの使用目的をみたものが図3-5-2です。

表 3-5-1 年別火災状況（最近10年間）

年 別	火災の種類										損害状況				
	合計	建物					車 両	船 舶	林 野	そ の 他	焼 損 床 面 積 (m^2)	焼 損 表 面 積 (m^2)	損 害 額 (千円)	死 者	負 傷 者
		小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や									
22年	50	49	6	2	12	29	-	-	-	1	1,201	61	197,154	1	24
23年	55	53	2	3	21	27	-	-	-	2	444	272	87,259	6	26
24年	58	56	3	2	16	35	-	-	-	2	545	67	66,076	2	32
25年	52	52	3	4	12	33	-	-	-	-	577	186	117,857	2	30
26年	56	56	1	1	15	39	-	-	-	-	210	214	44,925	-	21
27年	40	40	-	1	12	27	-	-	-	-	137	128	57,794	-	18
28年	48	47	2	3	11	31	-	-	-	1	473	180	85,770	1	24
29年	46	46	2	4	10	30	-	-	-	-	422	160	64,061	-	25
30年	41	40	2	3	11	24	-	-	-	1	911	98	135,331	4	15
元年	42	41	3	2	12	24	-	-	-	1	611	149	58,296	2	17

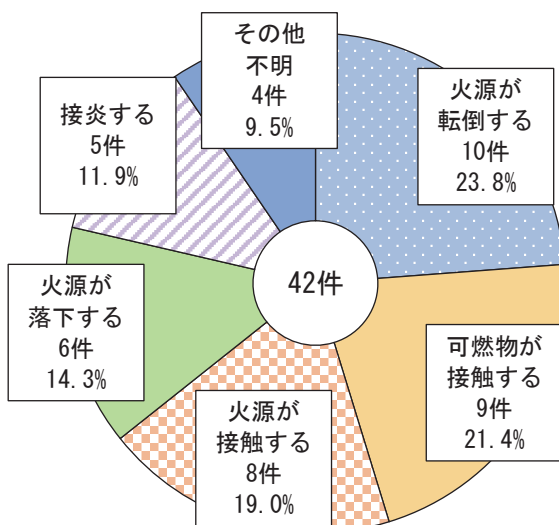


図 3-5-1 ロウソクによる火災の経過

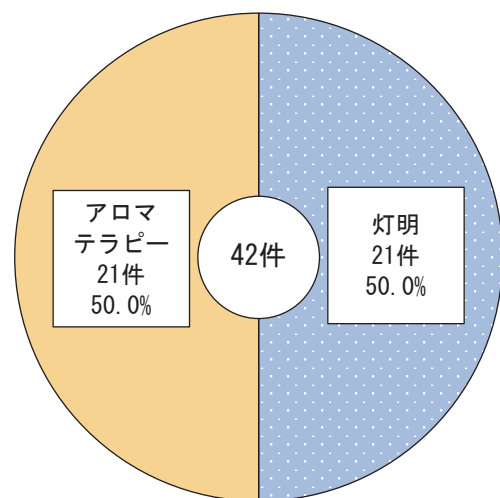


図 3-5-2 ロウソクの使用目的

○ 火災の経過をみると、ロウソクが転倒し着火したものが10件と最多。

6 電気設備機器

- 全火災件数に占める電気設備機器火災の割合が、最近10年で最も高い31.4%でした。
- 政令用途対象物の火災の割合が、増加傾向で推移しています。

抽出条件：①発火源分類コード 大分類コード「1 電気を使用する道具・装置」
 ②経過分類コード 「911 放火」、「912 無意識放火」、「921 放火の疑い」、「931 火遊び」を除く。
 ③車両から出火した火災の区分コード「0 非該当」

(1) 火災状況

表 3-6-1 年別火災状況（最近10年間）

年別	全火災件数	電気設備機器火災件数	全火災に対する割合 (%)	火災種別								損害状況					
				建物	航空機	車両	船舶	その他	焼損床面積 (㎡)	焼損表面积 (㎡)	損害額 (千円)	死者	負傷者				
				小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや									
22年	5,086	997	19.6	892	19	28	157	688	-	-	-	105	6,465	3,005	1,265,144	23	194
23年	5,340	1,051	19.7	933	18	26	139	750	-	-	1	117	4,774	2,345	931,142	12	172
24年	5,088	1,109	21.8	992	19	35	119	819	1	-	-	116	5,506	1,589	1,353,856	18	159
25年	5,190	1,111	21.4	984	20	28	129	807	-	-	-	127	7,221	3,570	2,052,525	21	155
26年	4,804	1,020	21.2	901	27	23	119	732	-	1	2	116	6,502	1,971	1,354,817	23	189
27年	4,430	1,047	23.6	909	21	21	104	763	-	-	2	136	5,685	1,913	970,983	18	178
28年	3,980	1,052	26.4	924	11	18	108	787	-	1	-	127	3,526	1,856	931,198	11	192
29年	4,204	1,152	27.4	1,019	22	17	118	862	-	-	-	133	4,447	1,819	1,208,237	13	171
30年	3,972	1,205	30.3	1,043	14	28	113	888	-	-	-	162	3,933	1,549	1,051,712	11	164
元年	4,085	1,283	31.4	1,143	15	21	103	1,004	-	-	-	140	5,173	1,663	4,197,587	13	159

注 全火災件数は、治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。

- 令和元年中の電気設備機器火災件数は1,283件で、前年と比べて78件増加。
- 火災種別では建物火災件数が100件増加し、焼損程度のぼやが初めて1,000件を超える。
- 電気設備機器火災の損害額が40億円を超え、最近10年間で最も高い。

表 3-6-2 電気設備機器による発火源と経過（その1）

発火源	合計	電線が短絡する	金属の接触部が過熱する	トラッキング	可燃物が接触する	過多の電流(含電圧)が流れる	地絡する	過熱する	絶縁劣化により発熱する	放置する・忘れる	火花が飛ぶ	スパークする	半断線により発熱する	考え違いにより使用を誤る	誤ってスイッチが入る(入れる)	放射を受けて発火する	火源が接触する	構造が不完全である	漏洩放電する	引火する	本来の用途以外の用に用いる	可燃物が落下する	可燃物を置く	摩擦により発熱する	その他	不明	
																											合計
電	小計	205	16	7	6	50	-	1	16	3	12	13	4	7	7	16	6	13	2	-	2	2	4	5	-	10	3
	電気ストーブ	62	1	1	1	42	-	-	-	-	-	-	-	2	-	3	5	-	-	-	1	4	-	-	2	-	
	電気クッキングヒータ*	22	-	-	-	-	-	1	-	7	-	1	-	3	6	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	2	
	電気こんろ	14	-	-	-	3	-	-	-	3	-	-	-	-	5	-	-	-	-	1	1	-	1	-	-	-	
	電気溶接器	13	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	電気トースタ	13	1	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
熱	投込湯沸器	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	ヘアドライヤ	6	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	電気乾燥機	4	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	電気ポット	4	2	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	電気アイロン	4	2	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	温風機	4	1	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	オイルヒータ	4	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
器	その他の電熱器	47	5	3	5	4	-	-	3	2	2	2	3	1	-	5	2	1	-	-	1	-	-	3	-	5	
電	小計	530	199	38	41	29	28	8	41	32	13	12	5	9	13	4	10	2	10	4	6	3	1	-	4	5	
	充電式電池	51	47	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	
	電子レンジ	47	3	-	1	-	-	31	1	-	-	-	-	-	8	1	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	
	蛍光灯	42	11	2	6	-	4	-	1	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	コンピュータ(本体)	26	21	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	1	
	LED	23	7	2	5	-	2	2	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	
	冷暖房機*	22	4	6	3	-	1	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	1	
	電磁調理器	21	2	1	-	-	-	-	2	-	13	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	掃除機	18	9	3	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	研磨機(グラインダ含む)	14	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	
	直流電源装置(ACアダプタ含む)	12	8	-	1	-	1	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	カーボンヒータ	12	-	1	1	4	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	白熱電球	12	2	2	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	ダウンライト	11	1	3	1	5	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	携帯電話機	11	10	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	ハロゲンランプ	11	-	6	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	電気冷蔵庫	10	5	1	1	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	扇風機	9	4	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	テレビ(液晶モニタ式)	8	6	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
機	冷蔵ショーケース	7	2	1	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
	ハロゲンヒータ(暖房器具)	7	1	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
	ネオン灯配線	7	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	
	換気扇	7	3	-	1	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	白熱灯スタンド	6	2	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	ジューサ	5	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	冷凍庫	5	3	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	洗濯機	5	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	
	シーリングライト	5	-	1	1	-	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
器	その他の電気機器	116	41	6	15	5	12	3	4	7	-	1	1	2	2	-	2	2	2	-	3	1	1	-	2	4	

表 3-6-2 電気設備機器による発火源と経過 (その2)

発火源		合計	電線が短絡する	金属の接触部が過熱する	トラッキング	可燃物が接触する	過多の電流(含電圧)が流れる	地絡する	過熱する	絶縁劣化により発熱する	放置する・忘れる	火花が飛ぶ	スパークする	半断線により発熱する	考え違いにより使用を誤る	誤ってスイッチが入る(入れる)	放射を受けて発火する	火源が接触する	構造が不完全である	漏洩放電する	引火する	本来の用途以外の用に用いる	可燃物が落下する	可燃物を置く	摩擦により発熱する	その他の	不明
電気装置配線	小計	65	21	10	8	-	7	3	1	7	-	-	4	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	2
	分電盤	15	4	8	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	制御盤	13	3	2	4	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	整流器	7	2	-	1	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	充電器	6	3	-	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	三相モータ	5	3	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	コンデンサ(低圧)*	5	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	その他の電気装置	14	6	-	1	-	3	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
線	小計	273	101	67	12	-	13	47	-	1	-	-	8	4	1	-	-	-	-	3	-	2	-	-	-	4	10
	コード	61	39	7	1	-	4	7	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	屋内線*	56	26	15	3	-	2	5	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
	配電線(高圧)	29	1	5	-	-	-	17	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	1
	配線用遮断器	17	2	10	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	1
	引込線(低圧)	12	7	1	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	漏電遮断器	11	-	9	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	屋外線	10	6	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
	電磁開閉器*	9	-	4	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
	屋側線	9	7	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	配電線(低圧)	7	1	1	-	-	-	4	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	変電設備内配線	7	2	2	-	-	-	2	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	気中開閉器	7	4	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	押しボタンスイッチ	5	1	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	電磁接触器	5	-	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	その他の配線等	28	5	9	2	-	1	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	2
器具等	小計	208	37	97	41	-	15	4	-	-	-	-	3	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
	差込みプラグ	85	14	37	20	-	7	1	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
	コンセント	56	8	36	3	-	4	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
	テーブルタップ	29	8	9	8	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	マルチタップ*	15	1	7	5	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	コードコネクタ*	8	-	2	4	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	積算電力計	6	2	2	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	電灯付家具、コンセント付家具	5	3	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他の配線器具等	4	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
その他の電気関係	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	

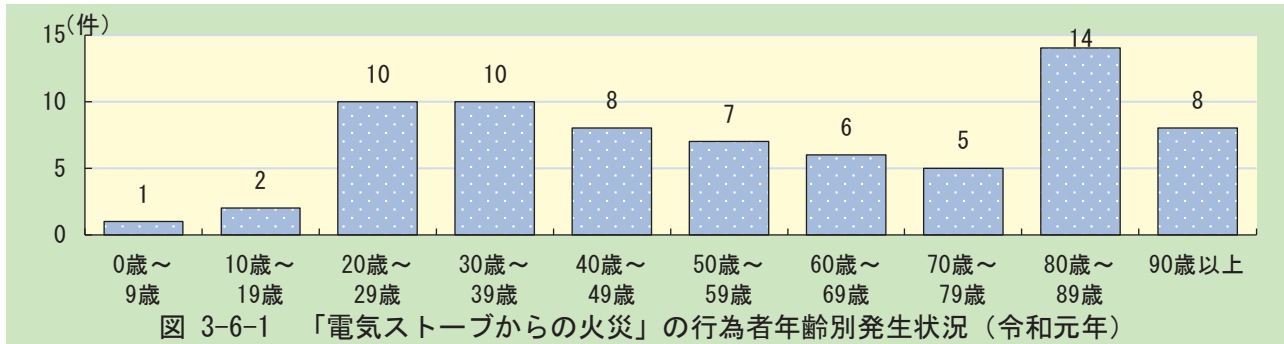
第3章

(2) 主な出火原因

電気設備機器を、発火源別に電熱器、電気機器、電気装置、配線等及び配線器具等に分類したものが表 3-6-2 です。

ア 電熱器

令和元年の「電気ストーブからの火災」を行為者の年齢別にみたものが図 3-6-1 です。



注1 「電気ストーブからの火災」は、電気ストーブ、カーボンヒータ*、ハロゲンヒータ及び温風機を含めたものをいいます。

2 行為者年齢が不明の14人を除いています。

- 電熱器関係の火災は205件(16.0%)で、前年と比べて17件減少。
- 電熱器の中で火災件数が最も多いのは、電気ストーブの62件(30.2%)。
- 電気ストーブの経過をみると、布団類などの可燃物が接触した火災が42件(67.7%)発生。

イ 電気機器

- 電気機器関係の火災件数は530件(41.3%)で、前年と比べて82件増加。
- 電気機器関係火災の上位3位をみると、充電式電池が51件(9.6%)で最も多く、次いで電子レンジが47件(8.9%)、蛍光灯が42件(7.9%)となっている。
- 充電式電池の経過をみると、「短絡する」が47件(92.2%)と最も多い。

ウ 電気装置

- 電気装置関係の火災件数は65件(5.1%)で、前年と比べて3件減少。
- 電気装置関係の中で最も多いのは、分電盤の15件(23.1%)で次いで制御盤の13件(20.0%)となっている。
- 分電盤の経過をみると、「金属の接触部が過熱する」が8件(53.3%)で5割以上を占める。

エ 配線等・配線器具等

- 配線等・配線器具等の火災は合わせて481件(37.5%)で、前年と比べて19件増加。
- 配線器具等の火災は208件発生し、このうち差込みプラグが85件(40.9%)、次いでコンセントが56件(26.9%)発生。経過の内訳をみると、いずれも「金属の接触部が過熱する」が最も多い。

オ 電気機器の部位別の火災状況

電気機器関係の火災 530 件の主な出火部位をみたものが表 3-6-3 です。

表 3-6-3 主な電気機器の出火部位

発火源	合計	充電部	差込みプラグ	電源コード	庫内	基板	安定器	ヒータ	コンデンサ	器具内配線	送風用モータ	その他の電気器具部分	その他・不明
合計	530	106	50	50	44	43	37	35	25	23	10	66	41
充電式電池	51	50	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
電子レンジ	47	-	1	-	41	1	-	-	2	-	-	-	2
蛍光灯	42	-	-	1	-	1	28	-	4	1	-	7	-
コンピュータ（本体）	26	19	5	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-
LED	23	4	1	2	-	8	-	-	-	2	-	5	1
冷暖房機	22	-	2	3	-	6	-	1	1	3	1	1	4
電磁調理器*	21	-	3	1	-	-	-	16	-	-	-	-	1
掃除機	18	12	1	2	-	1	-	-	-	-	1	1	-
研磨機（グラインダ含む）	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	4
直流電源装置（ACアダプタ含む）	12	-	7	2	-	2	-	-	-	-	-	1	-
カーボンヒータ	12	-	1	3	-	-	-	8	-	-	-	-	-
白熱電球	12	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	10	1
ダウンライト	11	-	-	-	-	-	-	-	1	4	-	5	1
携帯電話機	11	10	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハロゲンランプ	11	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	3	2
その他の電気機器	197	11	28	34	3	23	9	10	11	13	8	22	25

注 その他の電気器具部分とは、発火源部位の項目に該当していない部分を示す。

(ア) 充電部

- 電気機器の充電部から出火した火災は、106 件（20.0%）で、前年と比べて 37 件増加。
- 発火源別にみると、充電式電池の充電部からの火災が 50 件（47.2%）と最も多い。

(イ) 差込みプラグ・電源コード

- 差込みプラグと電源コード部分から出火した火災は、いずれも 50 件（9.4%）発生。
- 電源コード部分から出火した火災の主な要因は、物に踏まれたり折れ曲がった状態で使用されていたためにコードの被覆が損傷したり、長年使用したことによる経年劣化により、短絡や半断線が発生して火災となるケースが大半を占める。

(ウ) 庫内部

- 庫内部から出火した火災は、44件(8.3%)発生し、このうち電子レンジから出火した火災が41件(93.2%)で9割以上を占める。

(エ) その他の電気器具部分

- その他の電気器具部分から出火した火災は、66件(12.5%)発生。
- 発火源の上位3位をみると、研磨機(グラインダ含む)及び白熱電球が各10件(15.2%)と最も多く発生。このうち白熱電球の経過をみると、タオルや衣類等が接触する「可燃物が接触する」が8件(80.0%)となっている。
 次いで蛍光灯をみると7件(10.6%)発生しており、経過をみると「トラッキング」が5件(71.4%)となっている。

カ トラッキング

最近5年間のトラッキング現象による火災の年別発生状況をみたものが表3-6-4です。

差込みプラグのトラッキング現象による火災は、差し刃間の絶縁物上に湿気を含むちりや埃などが付着した状態で電圧が印加*されると、沿面電流が流れ、小規模な放電が発生し、この放電による火花により絶縁物表面に導電性のあるグラファイト*が生じて火災に至ります。

表 3-6-4 年別発生状況(最近5年間)

年別	電気火災件数	トラッキング火災件数 (電気火災に占める割合%)		差込みプラグ差し刃間の トラッキング火災件数
27年	1,047	88	(8.4)	36
28年	1,052	96	(9.1)	28
29年	1,152	98	(8.5)	34
30年	1,205	113	(9.4)	34
元年	1,283	108	(8.4)	30

注 差込みプラグの差し刃間のトラッキング火災件数は、「発火源が配線器具の差込みプラグで経過がトラッキング」、「電気設備機器(発火源が配線器具の差込みプラグを除く)のうち経過がトラッキングで発火源部位が差込みプラグ」の合計です。

- トラッキング現象による火災は、108件(前年比5件減少)発生し、電気火災の1割近くを占める。

(3) 火元の用途別火災発生状況

電気設備機器関係の火災を用途別にみたものが表 3-6-5 です。

表 3-6-5 火元用途別火災状況（最近 10 年間）

火元用途区分	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	元年	前年比較		
合計	997	1,051	1,109	1,111	1,020	1,047	1,052	1,152	1,205	1,283	78		
用途	建物	政令用途対象物	398	434	466	511	453	458	488	537	549	660	111
		(%)	39.9	41.3	42.0	46.0	44.4	43.7	46.4	46.6	45.6	51.4	5.8
	物	住宅・共同住宅	484	493	515	466	447	444	426	479	487	474	▼13
		(%)	48.5	46.9	46.4	41.9	43.8	42.4	40.5	41.6	40.4	36.9	▼3.5
	その他（建物以外）	115	124	128	134	120	145	138	136	169	149	▼20	
(%)	11.5	11.8	11.5	12.1	11.8	13.8	13.1	11.8	14.0	11.6	▼2.4		

- 政令対象物をみると、令和元年は 600 件以上になり、電気火災全体の 5 割（51.4%）以上を占める。

(4) 出火要因別発生状況

電気設備機器関係の火災の出火要因をみたものが図 3-6-2 です。

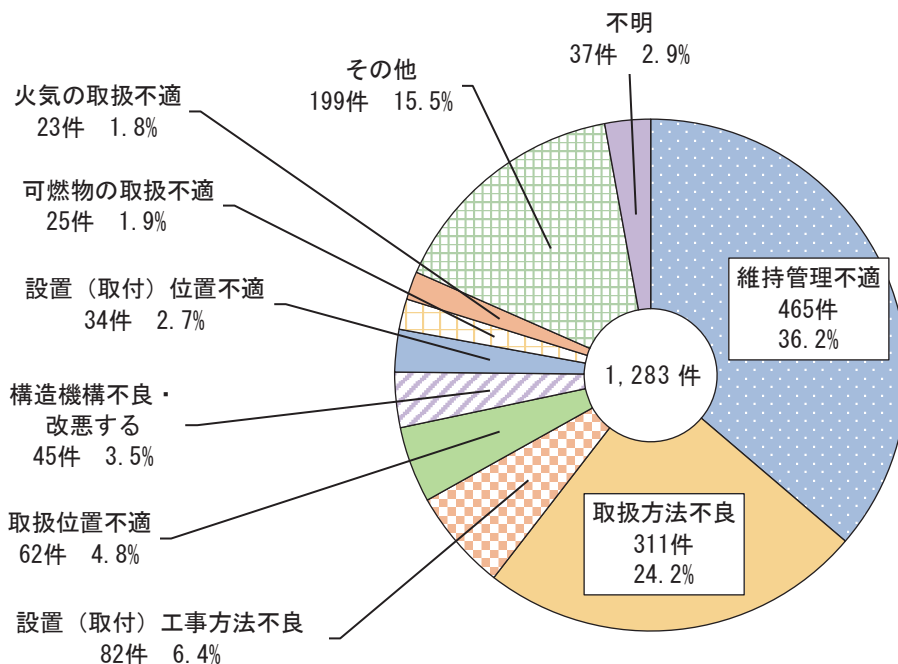


図 3-6-2 出火要因別状況

- 出火要因別発生状況をみると、「維持管理不適」が 465 件と最も多く、次いで「取扱方法不良」が 311 件で、この 2 項目で 6 割以上を占める。

(5) リチウムイオン電池の火災発生状況

リチウムイオン電池関連の火災の状況をみたものが表 3-6-6、製品用途別にみたものが表 3-6-7 です。

表 3-6-6 リチウムイオン電池関連火災状況（最近 5 年間）

年 別	火災の種類							損害状況				
	合計	建物					車両	その他	焼損床面積 (㎡)	焼損表面積 (㎡)	死者	負傷者
		小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや						
27年	26	21	-	-	3	18	3	2	2	53	-	3
28年	55	48	-	-	6	42	2	5	77	40	-	22
29年	56	47	-	-	5	42	7	2	32	41	-	4
30年	82	69	-	1	4	64	6	7	74	40	-	10
元年	102	95	1	1	11	82	2	5	400	257	-	12
対前年比	20	26	1	-	7	18	▼4	▼2	326	217	-	2
5年平均	64	56	-	-	6	50	4	4	117	86	-	10

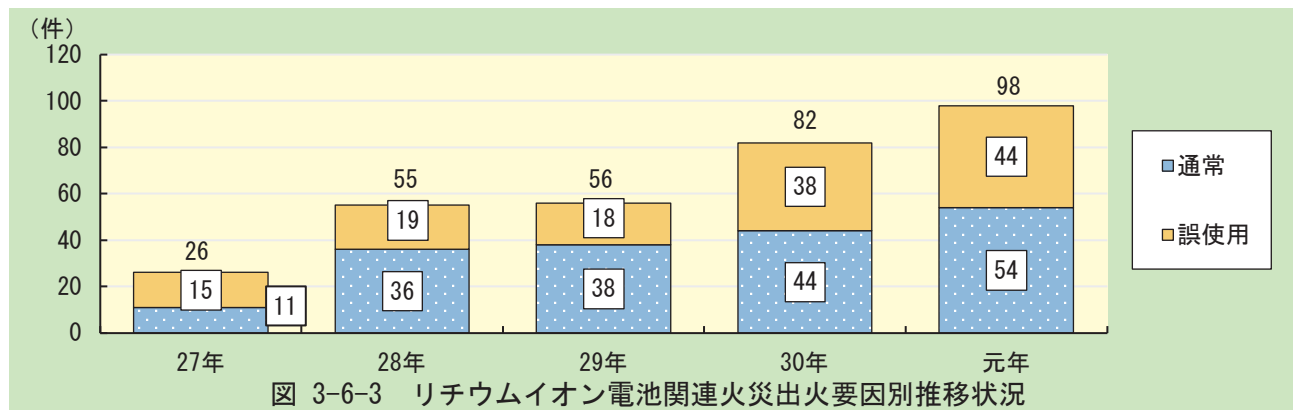
ア 製品用途別の火災状況

表 3-6-7 製品用途別火災状況（最近 5 年間）

年別	合計	パソコン 周辺機器	掃除機	パソコン コント	携帯電話機	タブレット	LEDライト	電動工具	電動アシスト車	その他
合計	321	79	20	33	36	12	12	7	12	110
27年	26	4	1	1	1	1	1	-	1	16
28年	55	15	1	5	6	-	2	-	4	22
29年	56	11	4	9	8	2	1	-	-	21
30年	82	26	2	6	10	2	5	4	5	22
元年	102	23	12	12	11	7	3	3	2	29

イ 要因別状況

要因を通常使用と誤使用に分け、内訳と推移状況を表したものが図 3-6-3、最近 5 年間で発生した誤使用による火災 134 件の内訳について表したものが図 3-6-4 です。



注 令和元年中は、火災件数 102 件のうち「不明」の 4 件を除いています。

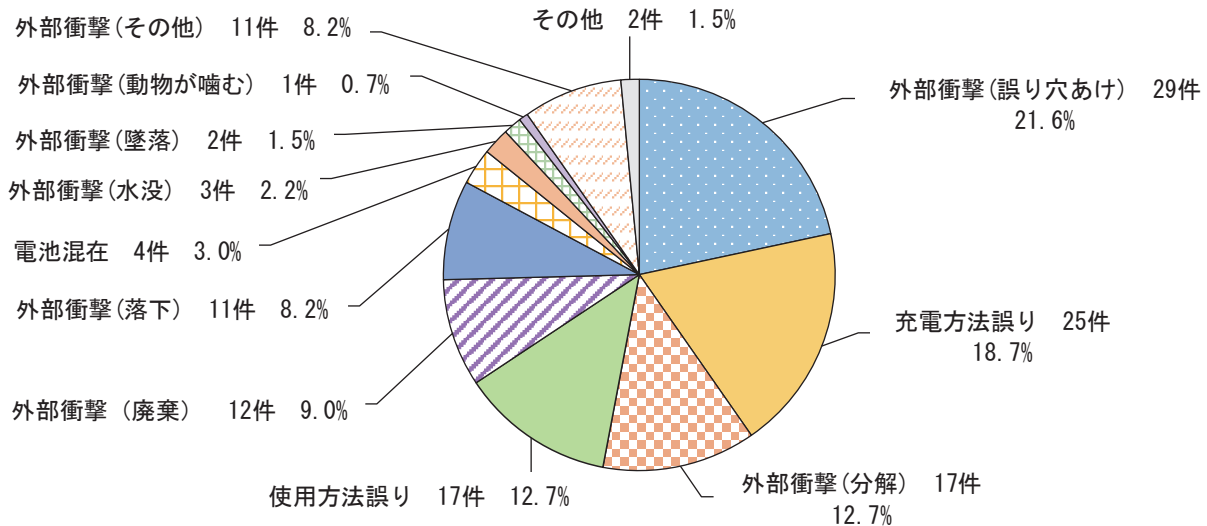


図 3-6-4 誤使用の内訳（最近5年間）

注 「廃棄」とは廃棄する際に分別のために分解し出火したもの等です。

リチウムイオン電池関連の製品からの火災は年々増加しています。そして、多種多様な製品から出火しており、誤った使用方法により出火するのはもちろんのこと、通常的使用方法でも出火する場合がありますので注意が必要です。

近年、事故が増加傾向にあることを踏まえ、経済産業省ではモバイルバッテリーを電気用品安全法の規制対象としました。平成31年2月1日以降は、基準等を満たしたものの以外は販売等ができなくなっています。消費者としては、PSEマーク（電気製品が安全性を満たしていることを示すマーク）が付いている製品を購入することが安全への第一歩となります。

- 誤使用の内訳をみると、外部衝撃（誤り穴あけ）が29件が最も多く、次いで電圧の異なる充電器を使用などの充電方法誤りが25件発生。

7 ガス設備機器

- ガス設備機器の火災における厨房関連設備機器の火災は 94.8%を占めています。
- 全火災に対する割合が、令和元年では 14.2%で前年と比べて 1.4 ポイント増加。

抽出条件：①発火源分類コード 中分類コード「21 都市ガス」、「22 プロパンガス」
 ②経過分類コード 「911 放火」、「912 無意識放火」、「921 放火の疑い」、「931 火遊び」を除く。
 ③車両から出火した火災の区分コード 「0 非該当」

(1) 火災状況

ここでとりあげる「ガス設備機器」の火災とは、都市ガス及びプロパンガスを燃料とする設備機器が発火源となった火災をいいます。

最近 10 年間の年別火災状況をみたものが表 3-7-1 です。

表 3-7-1 年別火災状況（最近 10 年間）

年別	全火災件数	ガス設備機器数	全火災に対する割合 (%)	火災の種類							損害状況				
				建物					船舶	その他	焼損床面積 (m ²)	焼損表面积 (m ²)	損害額 (千円)	死者	負傷者
				小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや							
22年	5,086	668	13.1	653	9	9	114	521	1	14	1,711	929	415,018	4	289
23年	5,340	647	12.1	631	10	12	95	514	-	16	2,038	986	451,650	5	263
24年	5,088	646	12.7	634	6	18	101	509	-	12	1,746	1,006	428,610	12	232
25年	5,190	631	12.2	620	11	7	93	509	-	11	1,719	737	293,474	7	231
26年	4,804	623	13.0	611	8	9	76	518	-	12	2,309	1,322	466,355	5	224
27年	4,430	694	15.7	681	8	11	101	561	-	13	2,102	1,352	363,408	9	252
28年	3,980	588	14.8	580	5	10	70	495	-	8	1,563	1,393	1,048,672	9	276
29年	4,204	560	13.3	549	6	9	82	452	-	11	2,119	824	719,562	7	194
30年	3,972	508	12.8	489	5	4	72	408	-	19	1,129	833	246,254	4	185
元年	4,085	582	14.2	569	5	6	74	484	1	12	1,403	830	326,554	3	202

注 全火災件数は、治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。

- 令和元年中の火災件数は 582 件で前年と比べて 74 件増加し、500 件台で推移。
- 建物火災の焼損程度をみると、令和元年中のぼや火災件数が最近 10 年間で 3 番目に少ない。

(2) 主な出火原因

主なガス設備機器別の発火源と経過を表したものが表 3-7-2 です。

表 3-7-2 ガス設備機器の発火源と経過

発火源	合計	放置する・忘れる	可燃物が接触する	接炎する	引火する	過熱する	誤ってスイッチが入る(入れる)	考え違いにより使用を誤る	伝導過熱する	火のついた油等が吸いこまれる	可燃物が落下する	放射を受けて発火する	可燃物が沸騰する・あふれ出る	その他	不明	
																計
合計	582	226	64	60	50	48	29	24	13	11	11	10	6	23	7	
厨房関連	小計	552	226	63	55	38	48	29	24	13	11	7	7	6	18	7
	ガステーブル	249	86	47	22	13	22	27	19	2	-	2	1	2	2	4
	大型ガスコンロ	110	69	-	10	4	10	-	-	6	-	1	4	2	4	-
	ガスコンロ	53	25	5	9	4	2	-	3	1	-	1	-	-	2	1
	大型レンジ	40	24	-	3	3	3	-	-	2	-	-	2	2	1	-
	簡易型ガスコンロ	27	10	4	3	5	1	-	1	-	-	-	-	-	2	1
	ガスレンジ	18	6	3	1	2	2	2	1	-	-	-	-	-	1	-
	無煙ガ스로ースタ*	12	-	-	-	1	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-
	フライヤ	10	1	1	3	1	3	-	-	-	-	-	-	-	1	-
	ガスオーブン	6	1	-	1	-	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-
	給湯器	5	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2	1
その他の厨房関連	22	4	3	2	5	3	-	-	-	-	2	-	-	3	-	
家事・季節関連	小計	19	-	1	1	9	-	-	-	-	4	3	-	1	-	
	ガスストーブ	6	-	-	-	1	-	-	-	-	3	1	-	1	-	
	簡易型ガスストーブ	5	-	1	-	1	-	-	-	-	1	2	-	-	-	
	ガスファンヒータ	5	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	その他の家事・季節関連	3	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
工業関連	小計	11	-	-	4	3	-	-	-	-	-	-	-	4	-	
	ガスバーナ	6	-	-	2	3	-	-	-	-	-	-	-	1	-	
	ガス切断器	3	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	
	ガス溶接器	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	

- 厨房関連設備機器の火災は 552 件発生し、ガス設備機器の 94.8%を占め、その上位 6 位までがコンロ部やグリル部を有する厨房設備や調理器具で発生。
- 家事・季節関連設備機器の火災は 19 件 (3.3%) 発生。経過をみると、最も多いのは「引火する」の 9 件で、うちガスファンヒータの 5 件 (55.6%) が 6 割近くを占める。
- 工業関連設備機器の火災は 11 件 (1.9%) 発生。

(3) 出火要因別発生状況

出火要因別発生状況をみたものが表 3-7-3 です。

表 3-7-3 ガス設備機器の出火要因

発火源		合計	火気の取扱不適	取扱方法不良	維持管理不適	可燃物の取扱不適	取扱位置不適	設置位置（取付）不適	その他	不明
合計		582	235	122	69	66	40	13	30	7
厨房関連	小計	552	229	118	68	57	34	13	26	7
	ガステーブル	249	86	67	15	36	17	4	20	4
	大型ガスコンロ	110	74	11	12	4	4	4	1	-
	ガスコンロ	53	26	11	2	5	6	1	1	1
	大型レンジ	40	22	8	7	2	-	1	-	-
	簡易型ガスコンロ	27	11	9	-	3	2	-	1	1
	ガスレンジ	18	5	5	3	2	3	-	-	-
	無煙ガスロースタ*	12	-	1	11	-	-	-	-	-
	フライヤ	10	2	1	5	1	-	-	1	-
	ガスオーブン	6	-	1	4	-	-	-	1	-
給湯器	5	-	-	3	-	1	-	-	1	
その他の厨房関連	22	3	4	6	4	1	3	1	-	
家事・季節関連	小計	19	3	2	1	6	4	-	3	-
	ガスストーブ	6	1	-	1	-	1	-	3	-
	簡易型ガスストーブ	5	2	-	-	-	3	-	-	-
	ガスファンヒーター	5	-	1	-	4	-	-	-	-
その他の家事・季節関連	3	-	1	-	2	-	-	-	-	
工業関連	小計	11	3	2	-	3	2	-	1	-
	ガスバーナ	6	1	1	-	2	2	-	-	-
	ガス切断器	3	1	1	-	-	-	-	1	-
	ガス溶接器	2	1	-	-	1	-	-	-	-

ア 火気の手扱い

- 出火要因をみると、「火気の手扱い不適」の 235 件（40.4%）が最も多く発生し、次いで「取扱方法不良」の 122 件（21.0%）発生している。この 2 項目で全体の 6 割以上を占める。
- 「火気の手扱い不適」が出火要因のガステーブルと大型ガスコンロを合わせた 160 件のうち、天ぷら油に起因する火災は 102 件（80.4%）で 8 割以上発生。

イ 取扱方法

- 「取扱方法不良」の火災は122件で、全体の21.0%を占める。
- 発火源の内訳をみると、ガステーブルが67件(54.9%)と最も多く、次いで大型ガスこんろ及びガスこんろが各11件(9.0%)発生。

ウ 維持管理

- 「可燃物の取扱不適」の火災は66件で、全体の11.3%を占める。
- 発火源の内訳をみると、ガステーブルが36件(54.5%)と最も多く、次いでガスこんろが5件(7.6%)、大型ガスこんろが4件(6.1%)発生。

エ 可燃物の取扱い

- 「維持管理不適」の火災は69件で、全体の11.9%を占める。
- 発火源の内訳をみると、ガステーブルが15件(21.7%)と最も多く、次いで大型ガスこんろが12件(17.4%)、無煙ガスロースタ*が11件(15.9%)発生。

オ 取扱位置

- 「取扱位置不適」の火災は40件で、全体の6.9%を占める。
- 発火源の内訳をみると、ガステーブルが17件(42.5%)と最も多く、次いでガスこんろが6件(15.0%)、大型ガスこんろが4件(10.0%)発生。

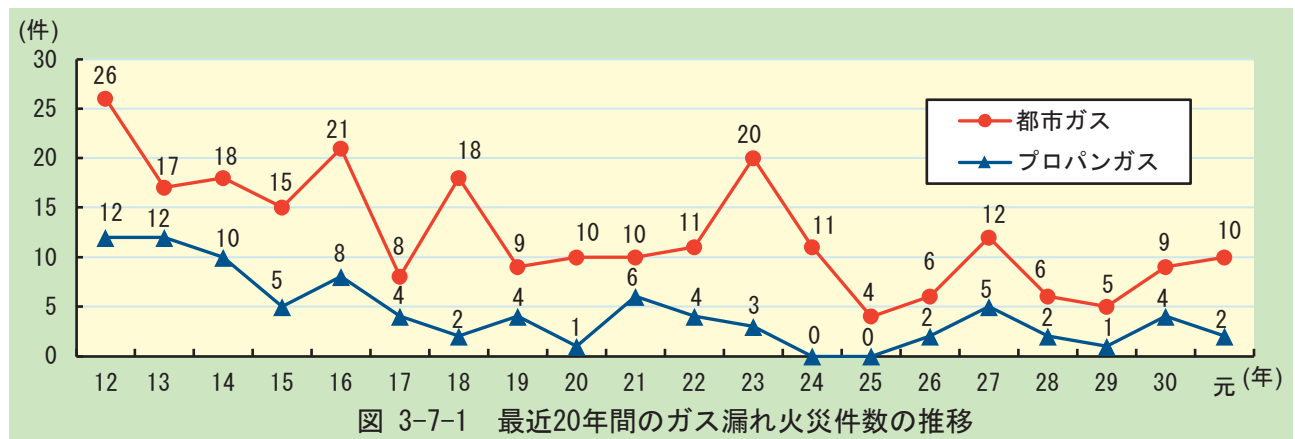
(4) ガス漏れ火災

ア 年別火災状況

最近10年間のガス漏れ火災年別状況をみたものが表3-7-4、最近20年間のガス漏れ火災件数の推移をみたものが図3-7-1です。

表 3-7-4 ガス漏れ火災年別状況

ガス種別	年別	合計	建物					その他	焼損床面積 (㎡)	焼損表面積 (㎡)	損害額 (千円)	死者	負傷者
			小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや						
都市ガス	22年	11	11	-	-	-	11	-	-	59	-	2	
	23年	20	19	-	-	2	17	1	16	26,114	-	11	
	24年	11	11	-	-	2	9	-	-	2,255	-	4	
	25年	4	4	-	-	-	4	-	-	4	-	1	
	26年	6	6	-	-	-	6	-	-	10	-	-	
	27年	12	12	-	-	1	11	-	-	1	55	-	1
	28年	6	6	-	-	-	6	-	-	8	-	1	
	29年	5	5	-	-	-	5	-	-	29	-	-	
	30年	9	8	-	-	-	8	1	-	73	-	1	
	元年	10	10	-	-	1	9	-	30	25	6,543	-	4
プロパンガス	22年	4	3	-	-	-	3	1	-	71	-	6	
	23年	3	3	1	-	1	1	-	150	1	36,431	-	3
	24年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	25年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	26年	2	1	-	-	-	1	1	-	5	-	-	
	27年	5	4	-	-	1	3	1	-	4	182	-	2
	28年	2	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	5
	29年	1	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	30年	4	-	-	-	-	-	4	-	11	-	1	
	元年	2	1	-	-	-	1	1	-	2,387	-	-	



イ 要因別の状況

令和元年中のガス漏れ火災のガス漏れ要因をみたものが表 3-7-5 です。

表 3-7-5 ガス漏れ要因の状況

ガス 種 別	発 火 源	ガス 漏 れ 器 具	合 計	器 具 コ ック 誤 操 作	差 し 込 み 不 良	ゴ ム 管 の 接 続 不 良	ゴ ム 管 老 化 き 裂	配 管 工 事 の 損 傷	立 ち 消 え (煮 物)	ガ ス の 元 栓 を 止 め ず に 配 管 工 事	屋 内 配 管 の 腐 食	そ の 他	
合	計		12	2	1	1	1	1	1	1	1	3	
都 市 ガ ス	小	計	10	2	1	-	1	1	1	1	1	2	
	ガステーブル	本 体	2	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-
		ゴ ム 管	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
		屋 内 配 管	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
	大型ガスこんろ	屋 内 配 管	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
		そ の 他	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	無煙ガスロースタ*	そ の 他	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	ガ ス レ ン ジ	本 体	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ゆ で 麵 機	屋 内 配 管	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
	ス ガ ス こ ん ろ	ガ ス コ ッ ク	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
プ ロ パ ン ガ ス	小	計	2	-	-	1	-	-	-	-	-	1	
	ガ ス バ ー ナ	ボ ン ベ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	簡易型ガスこんろ	ガステーブル のゴム管	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	

- ガス漏れ火災は 12 件で、前年と比べて 1 件減少。
- 都市ガス及びプロパンガスのガス漏れ火災は増減を繰り返し、長期的にみると減少傾向で推移。

8 石油設備機器

- 焼損床面積及び焼損表面積が前年と比べて増加しています。
- 負傷者は減少していますが、死者が3人発生しています。

抽出条件：①発火源分類コード 中分類コード「23 油を燃料とする道具装置」
 ②経過分類コード 「911 放火」、「912 無意識放火」、「921 放火の疑い」、「931 火遊び」を除く。
 ③車両から出火した火災の区分コード 「0 非該当」

(1) 火災状況

ここでとりあげる「石油設備機器」の火災とは、石油を燃料とする設備機器が発火源となった火災をいいます。

ア 年別火災状況

最近10年間の年別火災状況をみたものが表3-8-1です。

表 3-8-1 年別火災状況（最近10年間）

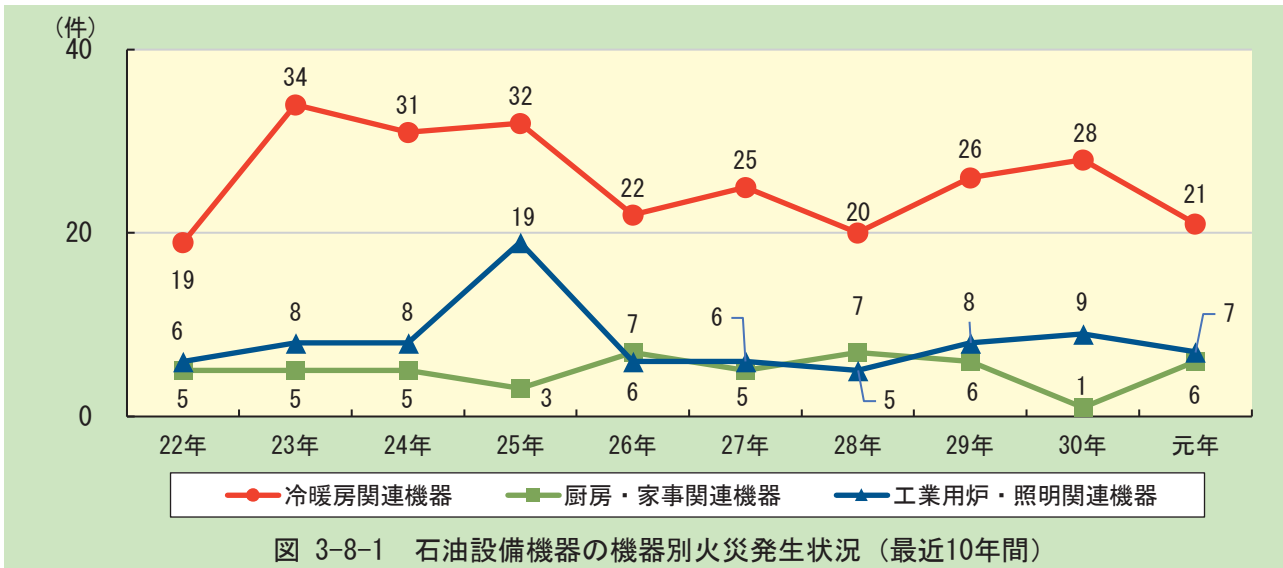
年 別	全 火 災 件 数	火 石 油 災 設 備 機 器 件 数 の	全 火 災 件 数 に 対 す る 割 合 (%)	火 災 種 別							損 害 状 況					
				建 物					航 空 機	船 舶	そ の 他	焼 損 床 面 積 (m^2)	焼 損 表 面 積 (m^2)	損 害 額 (千 円)	死 者	負 傷 者
				小 計	全 焼	半 焼	部 焼	ぼ や								
22 年	5,086	30	0.6	27	6	2	4	15	-	-	3	665	177	87,475	2	21
23 年	5,340	47	0.9	40	4	4	9	23	-	-	7	735	1,199	146,227	2	25
24 年	5,088	44	0.9	40	3	1	5	31	-	-	4	530	119	42,716	1	25
25 年	5,190	54	1.0	46	10	1	10	25	1	-	7	1,051	264	106,019	2	30
26 年	4,804	35	0.7	29	2	1	6	20	-	-	6	385	46	81,791	1	25
27 年	4,430	36	0.8	31	3	2	3	23	-	-	5	294	31	26,423	-	24
28 年	3,980	32	0.8	28	2	2	6	18	1	-	3	338	51	961,883	-	36
29 年	4,204	40	1.0	36	4	-	11	21	-	-	4	864	282	92,131	-	33
30 年	3,972	38	1.0	33	3	6	4	20	-	-	5	660	119	112,714	1	21
元 年	4,085	34	0.8	31	4	1	5	21	-	-	3	729	144	110,040	3	13

注 全火災件数は、治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。

- 火災種別をみると、建物火災が31件(91.2%)で、延焼拡大率(建物火災件数に占める部分焼以上の火災の割合)は32.3%を占める。前年に比べて7.1ポイント減少。
- 建物火災全体の火災件数2,904件の延焼拡大率が21.3%と比べて石油設備機器の火災は延焼拡大危険が高い。

イ 機器別火災状況

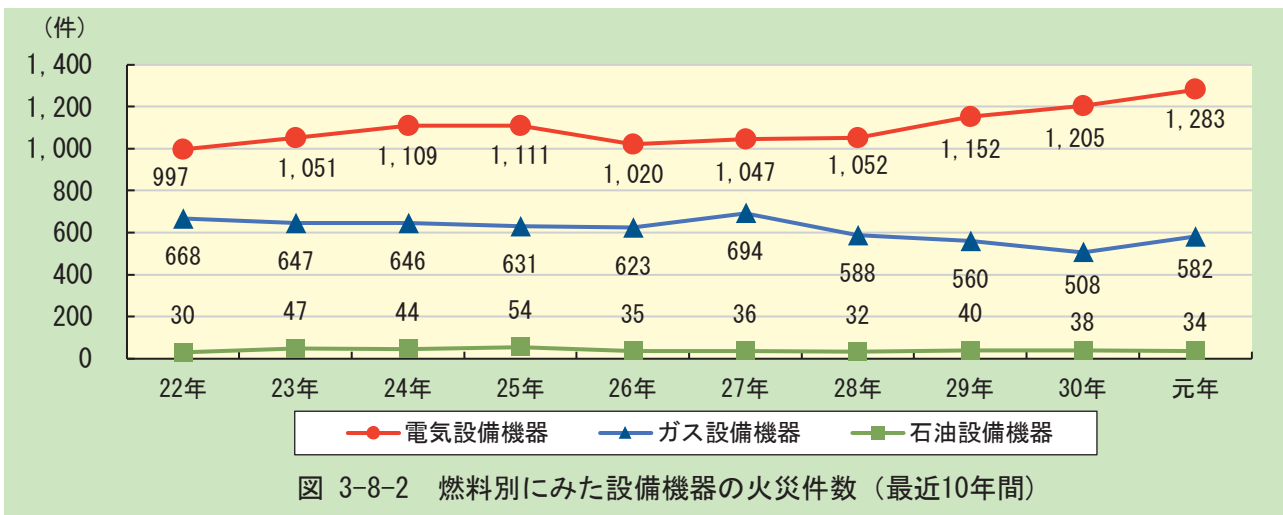
石油設備機器のうち、機器別による火災件数の推移をみたものが図 3-8-1 です。



注 放火、火遊び及び車両から出火した火災を除いています。

ウ 燃料別設備機器火災状況

最近 10 年間の電気、ガス及び石油設備機器別の火災件数を比較したものが図 3-8-2 です。



注 放火、火遊び及び車両から出火した火災を除いています。

○ 燃料別設備機器別の火災件数をみると、前年に比べて石油設備機器は 4 件減少、電気設備機器は 78 件増加、ガス設備機器は 74 件増加。

(2) 主な出火原因及び出火要因別発生状況

石油設備機器の火災とその発生経過をみたものが表 3-8-2、出火要因別火災状況をみたものが図 3-8-3 です。

表 3-8-2 石油設備機器別の出火に至った経過

発火源		合計	引火する	使用中給油する	考え違いにより使用を誤る	火源が破損する	過熱する	接炎する	吹き返す	放射を受けて発火する	着火物が漏洩する	可燃物が落下する	可燃物を置く	可燃物が接触する	機械の調整が適当でない	不明
合計		34	12	7	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
関連機器 冷暖房	小計	21	8	6	2	-	-	-	1	-	-	1	1	-	1	1
	石油ストーブ	18	6	5	2	-	-	-	1	-	-	1	1	-	1	1
	石油ファンヒーター	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	代用ストーブ ^注	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
関連機器 工業用	小計	7	3	-	-	1	1	-	-	1	-	-	-	1	-	-
	ボイラー	2	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	熱風炉	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	石油ランプ	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	溶解がま	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
	エンジンカッター	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	石油バーナ	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
関連機器 厨房用	小計	6	1	1	-	1	-	1	-	-	1	-	-	-	-	1
	アルコールランプ	2	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	風呂がま	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
	ガソリンこんろ	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	アルコールこんろ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	石油こんろ	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

注 ここでの「代用ストーブ」とは、エタノールを使用する暖炉をいいます。

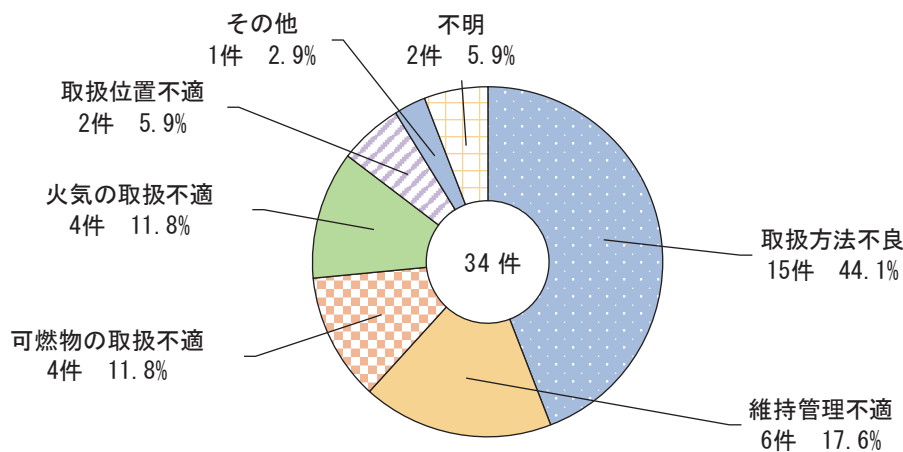


図 3-8-3 出火要因別火災状況

- 石油ストーブの火災は18件（52.9%）で前年と比べて4件減少しているが、石油設備機器の火災の半数以上を占める。
- 出火要因別でみると「取扱方法不良」は15件（44.1%）発生し、石油設備機器の火災の4割以上を占める。

9 その他の出火原因

- 花火による火災は8件で、このうち専門花火による火災が2件発生しています。
- 雷による火災は10件で、焼損床面積が45㎡計上されています。

ここでは、前述した出火原因以外で、火災件数の比較的多いものや、特異な出火原因についてみていきます。

その他の出火原因の火災状況をみたものが表3-9-1です。

表 3-9-1 その他の出火原因の火災状況

出火原因	火災の種類別							損害状況				
	合計	建物					その他	焼損床面積 (㎡)	焼損表面積 (㎡)	損害額 (千円)	死者	負傷者
		小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや						
花火	8(2)	2	-	-	-	2	6(2)	-	-	5	-	3
雷	10	9	-	1	-	8	1	45	-	17,757	-	-
再燃	10	7	-	-	1	6	3	11	-	558	-	-
収れん	7	6	-	-	3	3	1	29	17	10,968	-	1

注 出火原因が「花火」の（ ）内の数値は、専門花火の件数を内数で示しています。

(1) 花火

抽出条件：①発火源分類コード 「71201 煙火」、「71202 花火」

②経過分類コード 「911 放火」、「912 無意識放火」、「921 放火の疑い」、「931 火遊び」を除く。

ここでとりあげる「花火」とは、発火源が煙火（専門花火）及び玩具花火の両方の火災をいいます。

- 火災件数は8件で、前年と比べて2件減少。
- 月別発生状況をみると、5月、8月に各3件、2月に2件発生。

(2) 雷

抽出条件：経過分類コード 「841 落雷する」

- 火災件数は10件で、前年と比べて9件減少。
- 直接雷*によるものが3件（30.0%）、間接雷*によるものが7件（70.0%）。
- 月別発生状況をみると、9月に4件、8月に3件、2月、4月、6月に各1件発生。

(3) 再燃

抽出条件：経過分類コード 「321 消したはずのものが再燃する」

ここでとりあげる「再燃」とは、行為者が火災に対して消火行為を行い、消火できたと思われたものの、火種が残っていたため数時間後に再び燃え出して火災となったものをいいます。

再燃前の火災の消火方法と再燃物品をみたものが表 3-9-2 です。

表 3-9-2 再燃前の消火方法と再燃物品

再燃前の火災の消火方法	合計	再燃物品		
		寝具類	消したはずの木 材	消したはずの 紙
合計	10	7	2	1
コップ・湯のみ等の水をかけた	4	3	-	1
バケツ、洗面器等の水をかけた	2	-	2	-
直接水道の水をかけた	1	1	-	-
やかん、ポット等の水をかけた	1	1	-	-
その他（もみ消し・叩き消した等）	2	2	-	-

- 火災件数は10件で、前年と比べて7件減少。
- 再燃前の火災の発火源をみると、たばこによるものが7件(70.0%)と最も多く、このうち寝たばこに起因したものが3件(42.9%)発生。
- 再燃物品は、寝具類が7件(70.0%)で7割を占める。

(4) 収れん

抽出条件：経過分類コード 「991 収れんする」

収れんとは、太陽からの光が何らかの物体により反射又は屈折し、これが1点に集まることをいいます。反射又は屈折により太陽光が1点に集中した場所に可燃物があると、火災となる場合があります。

- 火災件数は7件で、前年と比べて4件減少。
- 発火源をみると、凸レンズが3件、凹面鏡が3件、反射板が1件となっている。